

25年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 1 回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	19 人	会場	福祉まちづくりセンター 2F 大会議室
	日時	25 年 5 月 27 日 (月) 13:30 ~ 15:00				
主 題 マ	<p>1 今年度の検討内容の確認</p> <p>①上伊那圏域小児長期入院児等支援連絡会とのかかわりについて</p> <p>②年間日程について</p> <p>③当事者、家族の参加について</p> <p>④障害者用トイレ、大人用ベッドの設置について</p> <p>2 障害者総合支援法における難病等の支援について</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 ①について</p> <p>○小児長期入院児等支援事業(H22～24)の説明(伊那保健福祉事務所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重心部会とリンクする形を考えていく。 ・新生児のみならず、障害児・障害者の地域受け入れ体制の整備という視点で、進めていきたい。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、4回程度の開催(5月・7月・10月・年度末)を予定。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会の年間日程がはっきりしていた方が、他の事業所や当事者、家族の方にも、もっと多く参加してもらえるのではないか。 <p>④について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かつてこの部会で取り上げ、県へ申し入れを行った結果、25年度中には県の福祉のまちづくり条例に反映され、大規模商業施設等への障害者用トイレ設置が、義務化される予定である。 ・今後も動きがあれば部会として、情報共有や検討をしていく。 <p>2 ○伊藤部会長(伊那市)より市町村職員の難病についての研修会参加報告。</p> <p>○伊那保健福祉事務所よりこれまでの難病への対応についての説明。</p> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難病の方とは今まで市町村は関わりがほとんどなかったので、これから状況把握、調査等を行っていく段階。 ・保健福祉事務所で新規難病認定者には、総合支援法や市町村の福祉制度のお知らせ配布、窓口紹介等している。 ・小児慢性特定疾患に関しては、難病対象外。別途、個々のサポートが必要と思われる。 					
ま と め	<p>・第2回は、7/5(金)、伊那養護学校つくしグループの連絡会に部会として出向くことで保護者の声を聞く機会ができるよう調整する。</p>					
次 回	<p>第2回は、7月5日(金) 伊那養護学校にて行う予定。時間等詳細は後日お知らせする。</p> <p>第3・4回については、随時調整していく。</p>					

25年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 2 回 重心・要医療的ケア 部会			参加者数	35 人	会場	長野県伊那養護学校 会議室
	日時	25 年 7 月 5 日 (金) 10:35 ~ 12:00						
主 題 マ	<p>1 上伊那圏域自立支援協議会及び重心部会の説明</p> <p>2 伊那養護学校(保護者)からの要望・質問</p> <p>3 意見交換</p> <p style="text-align: center;">市町村より 事業所より 医療機関より 学校より 保護者とのやりとり その他</p>							
主 な 意 見 な ど	<p>1 について 伊藤部会長より自立支援協議会の大概と重心部会についての説明。</p> <p>2 について(伊那養護学校担当教諭より報告) 卒業後の進路について(医療的ケアを受けられる支援施設が少ない) 現在の支援について(タイムケア・移動支援、入浴サービス) 災害時の対策について(避難場所や自宅待機者への支援、把握状況について) 昨年度の検討課題(引き続いての要望) 医療機関のバリアフリー化(歯科医院も含めて) 長期入院の際、医療的ケアが必要な子どもへの対応(居住地の病院でお願いできないか)</p> <p>3 市町村より(伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、南箕輪村) ・24年度より計画相談支援制度がスタートしている。相談支援専門員の方と連携して、早めに情報を得て、必要なサービス等利用手続きを進めていけるとよいのではないかと。 ・支援施設については、きらりあホームページ掲載の一覧表も参考になると思う。 ・災害時、基幹避難所とは別に必要に応じ福祉避難所を開設予定。受け入れ事業所とも災害時協定を結んで対応する。また、地域の「福祉支え合いマップ」の整備も進めているところである。</p> <p>事業所より ・医療的ケアを行うには、特に看護師不足の問題も深刻である。</p> <p>医療機関より ・上伊那生協病院より 空床を利用したショートステイを始めている。受け入れは、病床の空き状況による。 ・昭和伊南病院より 空床型のショートステイを実施しているが、一定の受け入れ基準がある。ご相談いただきたい。</p> <p>学校より ・計画相談の窓口を作り、相談支援専門員の方々と連携をさらに図っていきたい。 ・学校の個別教育支援計画と市町村の個別支援計画の連携をさらに進めていけたら、と思う。 ・地域福祉サービス一覧表は大変ありがたい。さらなる充実と、随時最新情報への更新をお願いしたい。</p> <p>保護者とのやりとり ・計画相談はどこが窓口が分からない。各市町村が窓口となっている。 ・市町村の個別支援計画に基づいて学校の個別教育支援計画を立てていただければ、と思う。 ・市町村から、もっといろいろな情報を提供していただけると、ありがたい。 ・保護者の側から積極的に情報収集に動く必要もあるのではないかと、という気もする。</p> <p>その他 ・他圏域では、老人保健施設が医療的ケアを必要とする子どもの受け入れを行っているところもある。こういった施設への働きかけも大切ではないかと。</p>							
ま と め	<p>・初の試みとして、伊那養護学校つくしグループの進路福祉懇談会に参加させていただき、学校現場や保護者の生の声をお聞きすることができた。今後の話し合いに生かしていきたい。</p>							
次 回	<p>・第3回について、日時等詳細は後日お知らせする。</p>							

25年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第3回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	16人	会場	福祉まちづくりセンター 2F 大会議室
	日時	25年 12月 17日(火) 10:00 ~ 11:30				
主 テ ー マ	<ol style="list-style-type: none"> 1 上伊那圏域小児長期入院等支援連絡会について 2 第2回部会(伊那養護学校つくしグループ懇談会参加)の振り返り 3 障害者用トイレ、大人用ベッドの設置について 4 その他 					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について(伊那保健福祉事務所より)</p> <p>(1) 小児長期入院児等支援事業の取組(平成22年度~24年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども病院における長期入院児について、地域支援が可能であれば、地域で在宅による支援を進める事業として3年間取り組んできた。 ・成果として、実態把握が進み、地域移行が適当な長期入院児の退院、自宅移行者の増加、関係者の課題共有や連携強化、NICU満床による受け入れ困難等の当面回避が実現できた。 ・課題としては、継続した地域移行支援と地域の受け入れ態勢整備が挙げられる。 <p>(2) 小児等在宅医療連携拠点事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的は、在宅で療養する小児・障害児等を支える医療・福祉の連携体制の強化を図りながら、多職種協働による包括的かつ継続的な在宅医療の提供が行われる体制を整備することで、6つの事業からなる。 ・特別支援学校への訪問支援については、伊那養護学校で関係者や対象児・保護者等を集めた会議や技術講習などを行う予定である。(テーマ「緊急搬送時における対応について」(予定)) ・在宅医療相談外来については、県立こども病院にて25年12月より開設している。 毎月第2・4火曜日 13:00~15:00で、対面相談、電話相談を受け付ける。どなたでも相談可能。 ・在宅医療ケアマニュアルのバインダー冊子作成や、救急情報提供カードの運用も開始している。 ・情報共有の促進では、インターネット利用電子手帳の開発、運用も進めている。 <p>(3) 長野県重症心身障害児者全数把握事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアが必要な児の全数把握を目的に実施予定である。 <p>2 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那養護学校つくしグループの懇談会に部会として参加することで、市町村、事業所、医療機関、学校、保護者等、それぞれの立場からのご意見をお聴きすることができ、実りあるものとなった。 (詳細については、第2回重心・要医療的ケア部会議事録を参照のこと) <p>3 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度の長野県福祉のまちづくり条例には、大規模商業施設、公共施設などへの設置が盛り込まれる予定である。 ・高速道路のサービスエリアについては、道路公団との兼ね合いもあり、目下、検討中とのことである。 <p>4 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きりりあからの困難事例について、意見交換を行う。医療的ケアを必要とする社会資源はあるが、緊急時に対応できない場合がほとんどである。すぐにつなげたい時につながらないもどかしさがある。緊急時のショートステイ、または日中預かりを、双方が安心してすぐに利用できるようになるには、何が必要で、どうすればよいのか？みなさんで考えていただくきっかけになれば、と思う。 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供や意見交換を通して、情報共有を図り、圏域の課題について改めて考えるきっかけとなった。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・2月頃を予定している。詳細については、後日お知らせする。 					

25年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第4回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	19人	会場	福祉まちづくりセンター 2F 大会議室
	日時	26年 2月 17日(月) 13:30 ~ 15:00				
主 題 マ	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児等在宅医療連携拠点事業について 2 上伊那圏域小児長期入院等支援連絡会について 3 災害弱者の取り組みについて 4 今年度のまとめと来年度の取り組みについて 5 その他 					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について(伊那養護学校 つくしグループ担当教諭より)</p> <p>伊那養護学校つくしグループ医療関係意見交換会(H26.1.31)の報告があった。概要は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立こども病院医療スタッフ、伊那中央病院小児科担当医師、消防署救急救命士を招聘して実施。 ・地域拠点病院としていきたい伊那中央病院小児科担当医師に子どもたちの実態を見ていただき、救急時の迅速・安全な対応のあり方を考えた。 ・急変時の個別対応マニュアルや救急隊員への緊急情報提供カードを作成、カードは家庭にも常備する。 ・消防署、中央病院からは、障害名や住所等の情報提供依頼があった。 ・救急救命士の方には、緊急時、学校の看護師や職員の話をよく聞いて対応してほしい旨お願いした。 ・情報共有のための電子カルテは、来年度には整備していく。 <p>2 について(伊那保健福祉事務所保健師より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的依存度の高い事例について、医療的ケアを実施している事業所、医療機関、市町村社会福祉課担当者を中心とした事例検討会を開催する。県立子ども病院も参加予定である。 ・事例をもとに、圏域の課題、ショートステイを含め、どんなケアや連携が必要か話し合いたい。 <p>自立支援協議会とのタイアップ開催であり、本部会からは正副部会長と事務局が出席予定である。</p> <p>3 について</p> <p>(1)市町村担当者より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策基本法に基づき、要援護者を把握するとともに、関係者の情報共有に必要な要援護者台帳の整備を進めているが、関係者への情報提供について本人同意が得られない方への支援が課題である。 ・支え合いマップを作成しているが、常に最新の情報へ更新していく維持管理が難しいと感じている。 <p>(2)意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中と夜間、平日と休日では状況が違う。複数ケースを想定してマップを作成することも大切ではないか。 ・高齢者の場合、救急搬送キットを準備し、冷蔵庫に保管するようにしている市町村もある。独居の方も非常時に冷蔵庫を開ければ、必要な情報がすぐ分かるようになっている。障がい者にも広めたらどうか。 ・一人暮らしの障がい者で医療キットをお願いしている方もいる。 ・アパート居住者や自治会未加入者など、落ちもれないよう情報を把握しておくことが大切かと思う。 ・福祉避難所や学校、医療機関等の非常災害時対応のあり方を引き続き検討していく必要性を感じる。 <p>4 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期的には、重度心身障がい者・医療的ケアを必要とする方を診てもらえる公的医療機関の圏域内設置が最大の課題である。当面、地域医療の中で緊急時対応をどう構築していくか検討していく必要がある。 ・一度も診たことのない方が緊急搬送された場合の対応が心配。子ども病院から拠点病院経由で地域へ戻るルートの確立や小児科と救急外来での情報共有、対象者リストの作成などが必要かと思う。急性期の病院ではレスパイト対応まではなかなか難しい現状もある。 ・医療と福祉との連携にあたって、きめ細かな連絡票を作成している圏域もある。部会でモデル案を作ってみてもよいのではないかと。介護保険分野では、「医療と介護の連携連絡票」が整備されている。 ・災害時の対応については、引き続き検討していくことが必要かと思う。 ・学校、医療、福祉の連携について、これまで障がい児を中心に検討してきた成果を成人障がい者へもつなげ、重心・要医療的ケア対象児・者の課題をトータルで考えていけるとよいと思う。 ・これまでの成果や考えをまとめて資料化し、県の自立支援協議会へ上げていくことも大切。先を急ぎすぎても積み残しが出る可能性がある。ワーキンググループを立ち上げ、問題を煮詰めていくのも一案かと思う。 <p>5 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駒ヶ根市児童発達支援施設つくし園とキープから課題提起あり。次年度の部会で改めて協議していく。 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・医療と福祉の連携及び非常災害時対応について話し合うことで圏域の課題を改めて考えることができた。 ・これまでの成果を踏まえ、来年度の取り組みの方向性について議論することができた。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、年4回の部会を開催してきた。多くのおみなさんのご参加、ありがとうございました。 ・来年度も引き続き、積極的なご参加をよろしくお願いいたします。 					